OITA UNIVERSITY
大分大学

大分大学医学部附属病院

かけはし

WINTER
第104号
令和8年1月1日

［発行］大分大学医学部附属病院広報委員会

新年のご挨拶

大分大学医学部附属病院
病院長　井原 健二

新年あけましておめでとうございます。

昨年（令和７年）４月に大分大学医学部附属病院の病院長を拝命し、多くの職員の皆さんと協力しながら安全で質の高い医療の提供に努めてまいりました。医師、看護師、薬剤師、検査技師、リハビリスタッフ、事務職員など、すべての職種が一丸となり、患者さんとともに病気と戦い、そして健康な生活に復帰されるまでの支援を行っています。

皆さまも報道等でご存じのとおり、現在、全国の国立大学病院は非常に厳しい財政状況に置かれています。医療機器の更新や医療人材の確保が難しくなる中、私たちは国立大学医学部附属病院長会議や日本医師会を通じて、厚生労働省および文部科学省に対し緊急的な財政支援をお願いしてまいりました。令和７年11月10日の衆議院予算委員会では、高市早苗内閣総理大臣が大学病院機能の強化に向けた取り組みを進める方針を表明され、ようやく明るい兆しが見えてきたように感じております。私たち大学病院は、高度医療の提供、幅広い医療人材育成、そして医学研究の推進という社会的使命を担っています。その役割を改めて認識し、各部署の機能を見直しながら、医療提供体制の再整備を進めてまいります。

当院は地域の中核病院として、高度で専門的な医療の提供に努めております。特に近年注目されているロボット支援下手術においては、文部科学省の補助金を活用し、３台目の手術支援ロボットを導入いたしました。本年度内には稼働を開始し、より多くの患者さんに安全で低侵襲な医療を提供できるよう体制を整えております。

本年は大分大学医学部（旧大分医科大学）が開学50周年を迎えます。これまで多くの患者さんからお寄せいただいた信頼に感謝申し上げるとともに、より一層安心して選ばれる大学病院であり続けるため、職員一同、真摯に医療に取り組んでまいります。皆さまのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

令和８年　新春

消化器内科学講座 教授

就任のご挨拶

大分大学医学部
消化器内科学講座　教授　水上（みずかみ） 一弘（かずひろ）

2025年11月1日付で消化器内科学講座教授に就任いたしました。

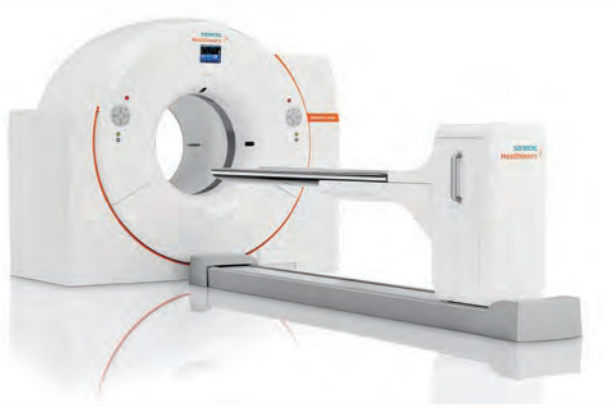
私は2000年に当時の大分医科大学を卒業後、宇佐市、豊後高田市、佐伯市などで臨床経験を積み、2008年から大学病院で勤務をしております。現在は専門性の高い診療・研究に携わっておりますが、地域医療での経験は、疾患そのものだけでなく、患者さんの生活や背景に寄り添う姿勢を育む大変貴重な時間であり、私の診療スタイルの礎となりました。

大分大学消化器内科では、食道・胃・小腸・大腸などの消化管疾患から、肝臓・胆道・膵臓に至るまで、幅広い領域を対象に診療を行っています。早期胃がん・大腸がんに対しては、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を導入し、手術に匹敵する根治性を維持しながら、身体への負担が少ない治療を実現しています。また超音波内視鏡（EUS）を用いた胆膵疾患の診断・治療にも注力し、胆石症、膵炎、膵がんに対して高水準の医療を提供しています。肝臓分野では、B型・C型肝炎、脂肪肝、肝硬変、肝細胞癌といった疾患を対象に、抗ウイルス療法、分子標的薬、免疫療法などの最先端の治療を導入しています。

日本の内視鏡診療技術は世界でもトップクラスであり、早期がんを発見する能力や内視鏡治療の技術は他国の追随を許しません。大分大学においても、多くの医局員がアジア諸国を中心に内視鏡技術指導を行い、国際的な医療水準の向上に貢献しています。最近では人工知能（AI）を活用した内視鏡診断支援にも積極的に取り組んでおり、2025年度に開設された「高度内視鏡診療センター」では、すべての内視鏡機器にAI機能を搭載し、より安全かつ精度の高い診療を提供しています。

現在、当講座には120名を超える医局員が所属しており、大分県を支える中堅・若手医師が県内各地で活躍しています。今後も、これまで培った経験を生かしつつ、先進医療の発展と次世代の医療人育成に力を注ぎ、地域に根ざした消化器内科診療を推進してまいります。

新規導入装置の紹介
（先端分子イメージングセンター PET-CT検査室）



当院では2024年12月に最新のPET-CT装置「Biograph Vision（シーメンス社製）」を導入しました。PET-CT検査は、放射性薬剤を使って体の中の「代謝の様子（細胞の活動の様子）」を調べる検査です。CTで得られる体の形の画像と組み合わせて、がんなどの病変を正確に見つけ出すことができます。Biograph Visionは、これまでよりも高性能な検出器（SiPM：シリコン光電子増倍素子）を搭載し、従来よりも小さな病変を鮮明に描き出すことができます。また、最新の撮像技術や画像処理により、少ない薬剤投与量でも高画質な画像を得ることができ、検査時間も短くなりました。そのため、患者さんの負担を減らしながら、より正確で質の高い検査を行うことができるようになりました。Biograph Visionは、「高画質・低被ばく・短時間検査」を実現する装置として、がんの早期発見や治療効果の評価に大きく役立つことが期待されています。PET-CT検査をご希望される場合は、まずは主治医の先生にご相談ください。

（文責：医療技術部放射線部門　工藤 伸也）

大分大学医学部50周年 ～寄附のお願い～

大分大学医学部の前身である大分医科大学は、昭和51年（1976年）10月に新設医科大学として開学しました。平成6年に看護学科を設置し、平成15年には旧大分大学と統合し大分大学医学部となりました。さらに令和5年に先進医療科学科を設置し、令和8年（2026年）に創立50周年の節目を迎えます。

この50年の間、学生に対し、最新の学術の教授・研究、高度な知識と技術及びそれらの本義を見失わない道徳観と豊かな教養を身に付けるよう育成を行い、大分県下をはじめ国内、さらには海外に多くの優秀な医療人並びに研究者を輩出してまいりました。

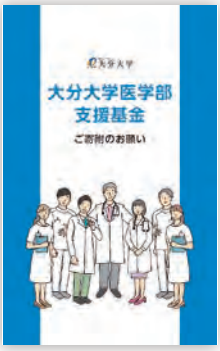
これからも「地域に根差し」、「世界を目指す」大学として一層の発展を遂げるため、「未来志向型医療人材の創出」をスローガンに掲げ、医学部創立50周年記念事業を計画しており、「医学部支援基金」を募集しております。本事業においては、次の世代へより充実した教育、研究環境を提供するとともに、地域への貢献にも活用していく所存です。

私たちは、次の50年も大分県の医療を支える拠点としてさらなる飛躍を目指し、これまで支えてくださった全ての方々への感謝を胸に、一層邁進していきます。

「医学部支援基金」は、病院内各所に設置したリーフレットの振込用紙のほか、右のQRコードからもご寄附いただけます。

みなさまの温かい支援を賜りますようお願い申し上げます。

（文責：経営戦略課長　蜷川 哲男）



医学部創設50周年記念事業

医学部・病院の環境整備

高度医療・先進医療の提供・社会貢献

医療人の育成

こちらのQRコードからもご寄附いただけます

「青年海外協力隊活動について」

―海の向こうで知った本当の豊かさ―

私は当院の高度救命救急センターで勤務しております水上友美と申します。2023年７月から2025年７月までの２年間、青年海外協力隊として南太平洋のソロモン諸島で医療ボランティア活動を行ってきました。

ソロモン諸島は約900の島々から成り、人口は70万人の自然豊かな島国です。しかし医療体制は十分ではなく、首都ホニアラにあるナショナル・リファラル・ホスピタル（National Referral Hospital）が最大の医療機関であるものの、医師や看護師、医療機器が不足しており、重症患者の治療や手術は困難でした。地方や離島ではさらに医療施設が少なく、看護師が簡単な処置を行い、重症患者は船や飛行機で首都へ搬送されますが、交通や費用の問題で搬送中に亡くなるケースも多く目にしました。

私は看護師として勤務し、現地スタッフと協力して感染症予防の指導や、安全に治療を行うための業務改善に取り組みました。医薬品管理の不備を改善するため、在庫表や使用量記録の仕組みを導入し、薬の欠品を減らしました。また、WHO（世界保健機関）と連携し、糖尿病や高血圧など生活習慣病の予防啓発活動を行いました。近代化に伴い輸入食品や甘い飲料の摂取が増え、運動不足も加わって都市部で生活習慣病が増加しており、心筋梗塞など心臓血管疾患が主な死因となっていました。そこで、現地スタッフが患者さんに正しい指導を行えるように技術指導を実施しました。

現地での生活を通じ、ソロモンの人々が自然と共に生きながら「助け合い」「穏やかさ」「感謝の心」を大切にしている姿に触れ、本当の意味の「豊かさ」を考えさせられました。限られた資源の中で人々が支え合い医療を行う姿は、医療の原点を見つめ直す貴重な経験となりました。この学びを活かし引き続き国際協力に寄与していきたいと考えています。また、当院においても外国人患者さんの受診が増加している現状を踏まえ、宗教や異文化、言葉の壁を越えて安心して医療が受けられる環境づくりに取り組んでいきたいと思います。

（文責：高度救命救急センター　水上 友美）

シリーズ
病院で働く
さまざまな
職種

「医療ソーシャルワーカー（MSW）ってどんな仕事？」

みなさまは病院に「医療ソーシャルワーカー（以下MSW）」がいることをご存じですか？

当院では総合患者支援センターとがん相談支援センターにそれぞれMSWが配置されています。

MSWは病気や怪我をした患者さんやそのご家族が安心して治療、療養、社会復帰できるように支援する専門職です。医療費や介護に対して何か使える制度があるのか、仕事や学校のことはどうすればいいのか等、患者さんやご家族が『誰に相談していいかわからないこと』に相談にのっています。

また病院の中で相談にのりきれない事柄については適切な機関や施設と連絡を取り合い、紹介します。そのために日ごろから相談機関や施設とのつながりをつくっています。

具体的な相談内容は以下の通りです。

退院や転院の相談

自宅退院や施設入所、在宅医療への移行を支援します。その中で介護サービスや訪問看護などの調整、関係機関（ケアマネジャー、地域包括支援センターなど）との連携を行います。

また現在の医療体制はその機能や役割が分かれているため病気が治るまでひとつの病院で過ごすことが難しくなりました。引き続きの治療やリハビリ、療養が適切に継続できるようMSWは医師や多職種と連携して転院先の検討、調整を行います。

経済的な相談

医療費や生活費の相談、各種公的制度の情報提供や申請支援などを行います。

心理・社会的な相談

病気や障害を抱えることによる心理的負担や家族関係の変化への支援を行います。患者さんやご家族の気持ちに寄り添います。

地域連携・社会資源活用の相談

地域の医療、福祉、介護、行政機関と連携し、患者さんやご家族が地域で安心して生活できるようにつながりをつくっています。

受診・受療の相談

患者さんやご家族に対し、受診や受療の支援を行います。患者さんの状況に適した医療の受け方、病院、診療所等の情報提供を行います。

権利擁護

患者さんの意思や権利を尊重し、インフォームド・コンセント（説明と同意）を支援します。

（文責：総合患者支援センター MSW　谷田・小野）

あなたの声を待っております

良い病院になるために

患者さんの声は、要約して載せておりますのでご了承願います。

声 トイレの清掃チェックをこまめにして欲しい。

回答 本院ではトイレの清掃を１日１回必ず実施しています。
清掃後も複数回チェックを行っており、汚れを確認した場合は、再度清掃を行っております。
使用される際に汚れ等があった場合は、病院スタッフにお声掛けください。

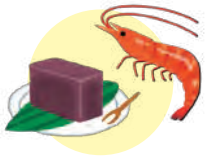
声 子どもがぐずっていて食べ物が買えずまともに食べられないことがあったので、付き添い家族用の食事があると助かります。
体力、気力が親には必要なのでできれば提供して頂きたいです。

回答 貴重なご意見ありがとうございます。
病院の給食は患者さんの治療の一環として、栄養士が病状や検査内容に合わせて個別に調整している“治療食”になります。
そのため、患者さんの付き添いの方へ同じ食事をお出しすることは現在はできませんが、今後も付添家族のご負担が減らせるよう配慮に努めてまいりますのでお困りの際は、病棟スタッフまでお声がけください。

＼ 感謝の声 ／

声 入院中の食事で敬老の日に、縁起のいい食材の海老を使ったおかず、秋分の日にくずあずきと季節にあった食材がでてきた。メッセージもそえてあり、気持ちが癒されました。

回答 この度は、お食事を楽しんでいただけたとの声をいただき、大変嬉しく思います。今後も行事にあわせたメニューや季節感を大切にし、お食事を通し、楽しみをお届けできるよう努力してまいります。



（文責：病院長）

OITA UNIVERSITY

大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘１丁目１番地　TEL 097-549-4411（代）

大分大学医学部附属病院ホームページ　http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html

これまでの「かけはし」は、医学部附属病院ホームページからご覧いただけます。

子育てサポートしています 2011年認定事業主